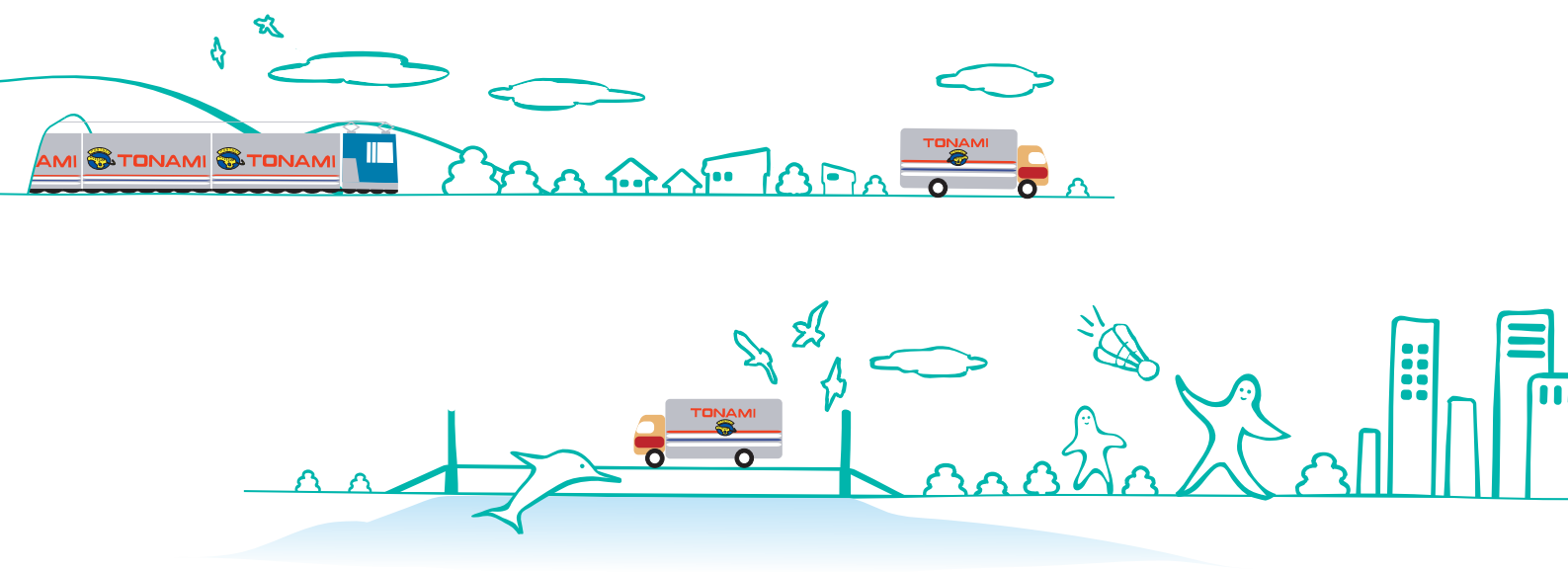


Corporate Social Responsibility

CSR報告書 2009



トナミホールディングス株式会社
TONAMI HOLDINGS CO.,LTD.

Contents

- 2 ● トップメッセージ
- 3 ● 経営理念／事業報告
- 5 ● 事業活動と社会・環境とのつながり

コーポレートガバナンス

- 7 ● コーポレートガバナンス体制

社会とのつながり

- 9 ● お客様とのパートナーシップ
- 11 ● 安全な社会づくりを目指して
- 13 ● 地域社会とのコミュニケーション
- 15 ● 人材の育成と働きやすい職場づくりを目指して

環境とのつながり

- 17 ● 環境負荷低減に向けて
- 19 ● 地球温暖化防止・大気汚染防止のために
- 21 ● 環境と安全への取り組み
- 23 ● 環境物流
- 24 ● 新グリーンエネルギー事業への挑戦
- 25 ● 廃棄物削減への取り組み
- 26 ● トナミホールディングスグループ 環境への取り組み

編集方針

- この報告書は、2008年度に行ったトナミホールディングスグループのCSR活動を紹介しています。
- 構成にあたっては環境省「環境報告書ガイドライン2007」を参考にしています。

対象期間

2008年4月1日～2009年3月31日
(一部対象期間外の活動も含みます。)

対象範囲

トナミホールディングスグループの活動実績を対象とし、最も事業規模の大きいトナミ運輸(株)の報告を中心としています。

会社概要 (2009年3月31日現在)

商	号	トナミホールディングス株式会社
設	立	1943年6月1日
資	金	14,182百万円
本	社	〒933-8788
		富山県高岡市昭和町3丁目2番12号

トップメッセージ



ごあいさつ

「和」の経営理念を実践し、 経営基本方針に基づいて 「企業の社会的責任（CSR）」を促進

トナミホールディングス株式会社
代表取締役社長

綿貫 勝介

トナミホールディングスグループは「第18次中期経営3ヶ年計画」の初年度を、昨年4月からスタートさせ、2008年10月には「純粋持株会社体制」へ移行し、成長戦略の促進・経営基盤の強化に取り組んでおります。

今後、トナミホールディングスグループは、「事業活動のあらゆる局面において、コンプライアンスを徹底すること」を行動原則とし、企業の社会的責任をはたしていきたいと考えております。

具体的には、「輸送の安全を確保すること」、「地球環境に配慮すること」、「法令やルールを守ること」、「人権を尊重すること」、「地域社会に貢献すること」は不可欠なことであり、物流のエキスパートとして、企業倫理と法令遵守、コーポレートガバナンスの充実に、より一層積極的に取り組む所存です。

また、事業活動において「お客様の満足実現」を基本に、「一層の地域社会の発展と地球環境の保全に努め、従業員が働き甲斐、誇りと生きがいを持って働ける会社」に向かって努力してまいります。

なお、二酸化炭素の排出による地球温暖化への影響も深刻化しており、エネルギー利用の一層の効率化をはかることが極めて喫緊の課題と認識し、当社グループは、物流の効率化、低公害車の導入、モーダルシフト、エコドライブ活動等を通じ、従業員全員が参加してエネルギーロスを生まない事業活動に取り組んでおります。

一方で、環境事業部門が中心となり、「社会・環境」というテーマで、資源の地域完結型リサイクルを推進する

「エコロックシステム」や「広域認定制度」などにより、効率のよい広域的なリサイクル活動を行うことによって、循環型社会づくりに寄与するよう努めております。

現在、産業廃棄物の最適なりサイクルルートを提案する「エコ蔵」システム（ビジネスモデル特許出願）を環境物流の展開の中核としてその実現に向けて取り組んでおり、企業の成長と環境保全、次世代を担うための「使命感を持った社会的に責任ある事業活動」により、CSRの推進を強化するとともに、継続的かつ持続可能な活動によって企業価値を一層高め、ステークホルダーに対して社会的な責任を果たしてまいりたいと考えております。

当社グループはいかなる事業環境にあろうとも、企業としての健康体を維持し続けるために、適正な利益を確保することを事業運営の基本とし、今後とも健全なる企業運営によって、「お客様の高い評価と信頼をかちうる品質の実現」をサービス提供の基本として、3PL事業の拡大・高収益企業への成長をはかり、当社グループの企業価値向上に努めてまいります。

本報告書は、環境保全活動・CSR活動をとりまとめ、「CSR報告書」としては2回目の発行となります。

当社グループの活動をご紹介することにより、社会に信頼される企業を目指した取り組みの一端をご理解いただければ幸甚に存じます。

今後とも、皆様には、忌憚のないご指導・ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

「和」の経営理念を実践し、
経営基本方針に基づいて
「企業の社会的責任(CSR)」を
はたしていきます。

トナミホールディングスグループは、
お客様に「安全・確実・迅速なサービス」を提供することを通して事業の発展をはかり、
株主の皆様へ「適正で安定した配当」を継続することを経営の基本方針としております。

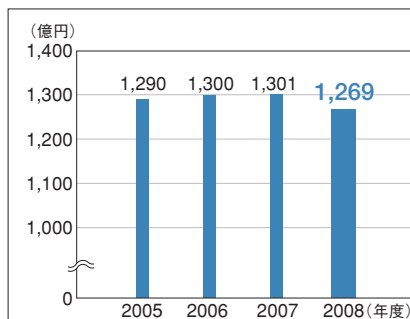
この方針に基づいて、常に企業価値の向上に努め、収益性を確保し、
その成果を株主の皆様、お客様、取引先、従業員、社会と適正に分ち合うことが、
トナミホールディングスグループの使命であると考えております。

トナミホールディングス株式会社
TONAMI HOLDINGS CO.,LTD.

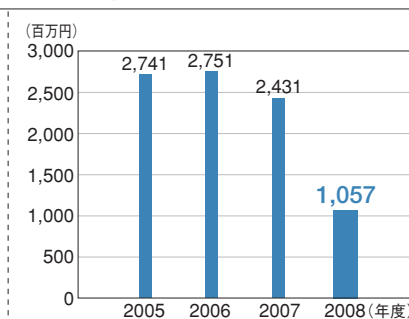
事業報告

事業報告2008年度（2008年4月～2009年3月）

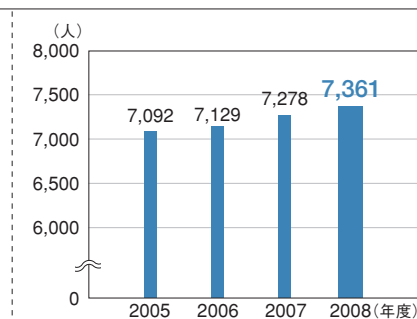
■連結売上高の推移



■連結経常利益の推移



■連結従業員数の推移



■連結事業別営業収益

事業別	金額(百万円)	構成比(%)	前期比(%)
物流関連事業	(114,646)	(90.3)	(97.5)
貨物自動車運送事業および貨物利用運送事業	84,323	66.4	95.9
倉庫業	23,304	18.4	104.3
港湾運送事業	7,018	5.5	95.0
情報処理事業	(2,828)	(2.2)	(115.6)
その他の事業	(9,454)	(7.5)	(93.4)
合計	126,930	100.0	97.5

(注) その他事業欄には、自動車修理業、損害保険代理業、物品販売並びに委託売買業、総合リース業、旅行業、ダイレクトメール業、旅館業、旅客運送事業、その他事業の各収入を含めて表示しております。

第18次中期経営・3ヶ年計画（2008年4月1日～2011年3月31日）

基本スローガン



【輸送を通じ社会に寄与し事業の発展をはかる】

- ※「社会」・「顧客」・「株主」・「従業員」との共生をはかる。
- ※物流の担い手として、国内・国際一貫、環境への取組、CSR（社会的責任）に取り組む。

基本目標

- ① 高収益企業への成長と社会的存在価値の向上をはかる。
- ② 3PL事業の拡大と海外事業の展開をはかる。
- ③ お客様の高い評価と信頼をかちうる品質の実現をはかる。
- ④ 環境事業への挑戦と安定拡大をはかる。
- ⑤ 働き甲斐、誇りと生きがいを持てるよう一層の職場の改善をはかる。

事業活動と社会・環境とのつながり

社会・環境とのつながりの中で、事業活動を営んでいます。
事業活動における資源やエネルギー使用量（INPUT）やどのような環境負荷が発生しているか（OUTPUT）を把握し、この結果をもとに見直しをはかり、継続的改善に取り組んでいます。

INPUT

事業所へ

電 気
都 市 ガ ス
上 水 道
コピー用紙
段 ボ ール
など

P18、19、25参照

車両へ

軽 油
ガ ソ リ ン
C N G
など

P18、19、20参照

通運事業

3PL（サードパーティ・ロジスティクス）

OUTPUT

廃棄物

可燃ごみ
不燃ごみ
廃タイヤ
廃油
など

P25参照

大気へ

CO₂
NO_x
P M など

P18、19、20、21参照

環境物流

車両整備事業

トラック輸送事業

引越事業

インターネットサービス

コーポレートガバナンス



コーポレートガバナンス体制

トナミホールディングスグループは、社会・ステークホルダーから信頼される企業としての体制を整備し、事業の更なる価値創造を目指します。

●コーポレートガバナンスに関する基本的な考え方

トナミホールディングス(株)の内部統制システムの基本方針については、純粹持株会社体制への移行に伴い、

2008年10月1日の取締役会で決議し、その基本方針に基づき、内部統制委員会が中心となって、健全な内部統

制システムの構築をはかり、トナミホールディングスグループの事業価値を高めるよう取り組んでおります。

●会社の機関の内容及び内部統制システム

当社には、経営方針および経営戦略にかかわる重要事項を担当する機関として取締役会を設置しており、取締役会規則に基づいて、月1回これを開催することを原則としております。当社の取締役会は、月1回これを開催することを原則とし、その他必要に応じて随時開催して、取締役会の意志疎通をはかるとともに相互に業務執行を監督し、必要に応じて、外部の専門家を起用し法令定款違反行為を未然に防止することといたしております。

また、当社は、監査役会設置会社であり、常勤監査役2名、社外監査役3名の5名体制で構成し、監査役は取締役会およびその他重要会議への出席や意見の具申等で取締役の適法性について監査しております。

取締役の職務執行については、監査役会の定める監査の方針および分担に従い、社外監査役を含め各監査役の監査対象となっております。

取締役が他の取締役の法令定款違反行為を発見した場合は直ちに監査役および取締役会に報告し是正をはかることとしており、内部監査部門として執行部門から独立した監査室を置いております。

さらに、コンプライアンス体制の基礎として「トナミホールディングスグループ社員行動規範」を定め、社長を委員長とする内部統制委員会を設置し、その下に内部統制監督委員会、内部統制室を設けて、内部統制システムの構築を推進しております。

コンプライアンスの統括組織として

コンプライアンス委員会を設置し、リスク管理体制の基礎として経営リスク管理委員会を設け、内部統制体制の維持・向上のための統括・運営・研修を実施しております。

事業子会社における業務の適正を確保するため、グループ事業子会社すべてに適用する行動指針として「トナミホールディングスグループ社員行動規範」および、「グループ運営規程」を定めるとともに、これを基礎として、グループ事業子会社で諸規程を定めています。

なお、経営管理については、「グループ会社管理要領」により、本社承認・報告事項を定め、事業子会社経営の管理を行っております。

●内部統制システムの整備の状況

当社の内部統制システムの整備状況にあたっては、トナミホールディングスグループの経営リスクマネジメントに関する基本方針を定め、事業子会社の運営に影響をおよぼす恐れのあるさまざまなリスクへの適切な対応を行い、経営基盤の安定化をはかると

ともに、万が一、経営リスクが発生した場合の影響を極小化し、当社の損失および社会的損失をできる限り発生させないよう取り組んでおります。

さらに、コンプライアンスの重要性を認識し、コンプライアンス委員会を設置し、「トナミホールディングスグルー

プ社員行動規範」に基づき、トナミホールディングスグループ事業子会社の役員社員に企業倫理と法令遵守を浸透させるため推進担当者を選任し、コンプライアンスにかかわる教育説明会を実施しております。

また、企業活動において、あらかじめ

違反行為が起これる可能性を抽出し、未然防止をはかるよう、推進状況を報告させ、違反行為が発生した場合は、早期に解決し、再発防止を講ずるコンプライアンス体制の構築に努めています。

なお、取締役会が決定した基本方針に基づき、速やかな業務執行に努めており、経営に関する法令遵守事項等については、必要に応じて、公認会計士や弁護士等の専門家から助

言を受け参考としております。

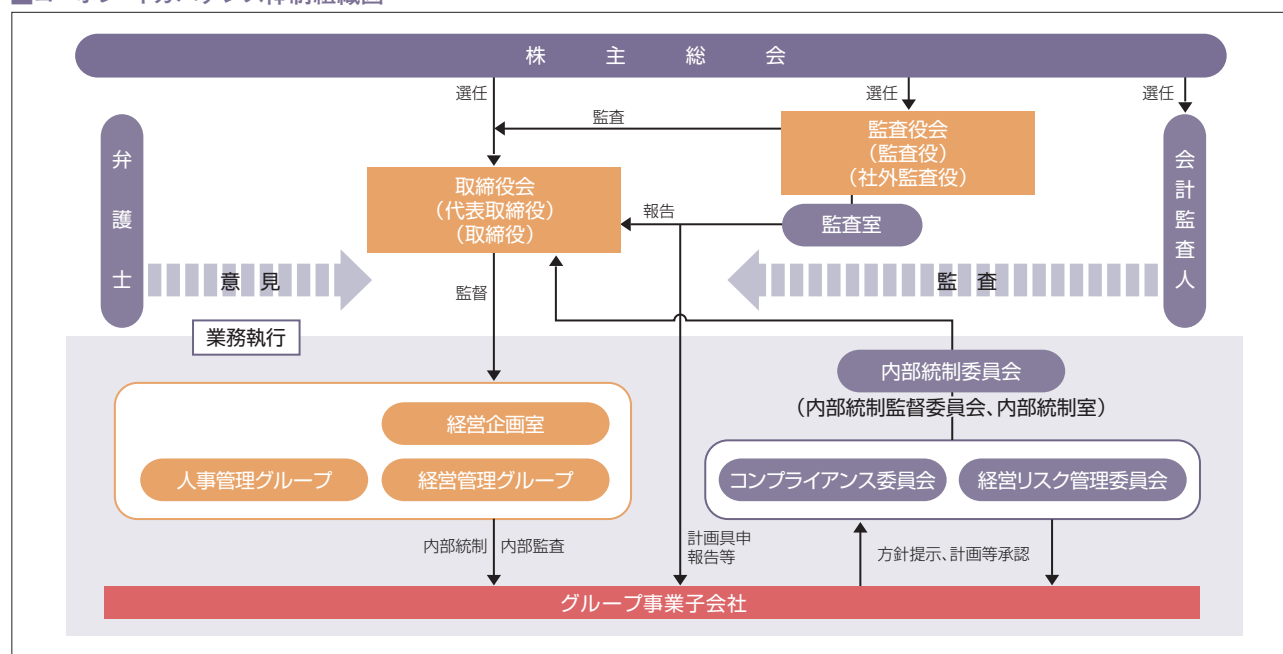
そして、「グループ運営規程」を基礎として、グループ事業子会社各社で諸規程を定め、「グループ会社管理要領」により本社承認・報告事項を定め、事業子会社の経営管理を行うことにより、経営環境の変化に速やかに対応する体制を整え、経営の健全化に努めております。

業務執行が適切で効率よく行われているかについては、監査室による内

部監査を実施し、監査役および取締役会に報告を行っております。

反社会的勢力に対しては、毅然とした態度で臨み、一切の関係を持たないこととしております。また、不当要求等の介入に対しては、警察等の外部専門機関との緊密な提携のもと、関係部署が連携・協力して組織的に対応し、利益の供与は絶対行わないこととしております。

■コーポレートガバナンス体制組織図



トナミホールディングスグループ社員行動規範

- お客様に、常に安全・確実・迅速な物流サービスを提供します。
- 地球環境を守るために、物流サービスのあらゆる段階において環境負荷低減に努めます。
- 輸送活動にあたって、法・社会倫理・社内規程を遵守します。
- 公正な企業活動を行います。
- 整理・整頓を心がけ、清潔を保って快適な作業環境を維持します。
- 基本的な人権を尊重し、良好な職場環境を維持します。
- 企業情報・得意先情報・個人情報の保護に細心の注意を払います。
- 得意先の価値創造に役立つコンセプトを構想、提案します。
- コンピュータ・ネットワークの不正な利用・業務目的以外の使用をしません。

社会とのつながり

お客様とのパートナーシップ

お客様の立場で品質へのこだわりを考え、お客様に心から満足していただける商品・サービスの提供を目指します。

●「物流品質マイスター制度」の導入

トナミ運輸(株)は、東京海上日動火災保険株式会社様のご協力を得て、「物流・安心品質づくり」のノウハウを継承し、すぐれた技能・スキル・マネジメント力を持った従業員の育成を促進する「物流品質マイスター制度」を導入しました。当制度の導入により、物流業務全般について、今後とも一層の適正運営をはかり、物流品質の改善・向上に努めてまいります。

7つの取り組み

- ①「物流品質マイスター」によるトナミ品質の全店展開
- ②「全店共通ルール10ヶ条(トナミルール)」による作業品質の全店標準化
- ③「貨物事故削減計画書」により全店で毎月、継続的改善(PDCA)
- ④プラットフォーム上の貨物を守る「養生板」を全店所に配備
- ⑤プラットフォーム上に「24時間監視カメラ」を設置し、商品事故防止に活用
- ⑥現場第一主義:社外の専門家を含む多様なメンバーでの現場点検指導
- ⑦お客様へ「物流“安心”品質」(運送保険)をご案内・ご提供

マイスターの紹介



京都支店
乾 哲也 支店長

貨物事故防止はひとりでは出来ない。
だから「全員参加型」

- ①養生板も全員で作成することにより大事に扱う。
- ②毎週、金曜日営業乗務員リーダーによる運行車荷積み点検の実施。
- ③貨物事故発生状況をグラフ化し、掲示。事故防止への意識の高揚を図る。



岡山支店
島原 隆広 支店長

運行乗務員

積み込み時異常確認ノートの携帯と活用
積み込み前に外装を確認し、ケース破損等外装異常があった場合は相手店発送マネージャーの現認をドライバーがとる。帰着点呼時、提出を求め、自店到着事業所→事業所にて検証。

営業乗務員

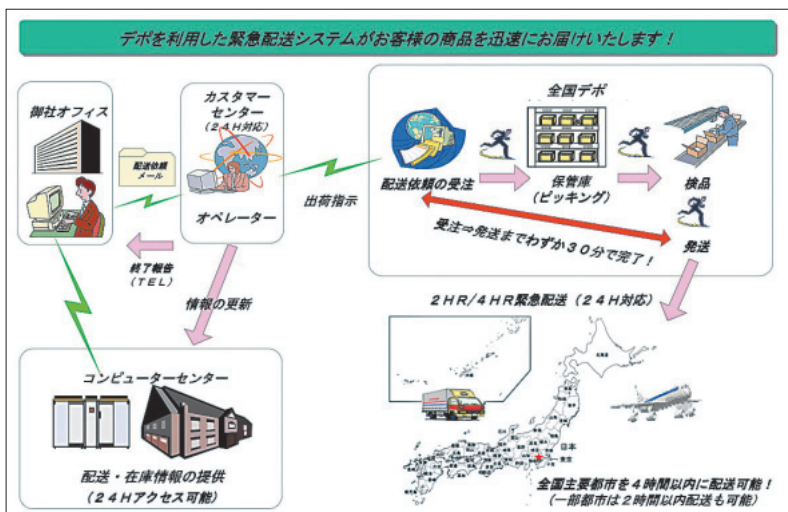
ホーム上の養生板携行の励行
ホーム上での養生板をエンドユーザーまで使用。営業乗務員リーダーによる養生板使用状態及び安全な積み付けの確認及び指導。

●TSM(トナミ・サプライ・メンテナンス)事業の開設

トナミ運輸(株)では、国土交通省から2008年9月12日付で「産業活力再生特別措置法の認定」を取得し、その一環として、新サービス「TSM(トナミ・サプライ・メンテナンス)」に取り組みます。

※「TSM(トナミ・サプライ・メンテナンス)」は、「迅速かつ24時間対応の配送ニーズ」に対応したもので、既存の全国物流網とウェブを利用したマルチベンダー型システムにより、顧客が配送状況や在庫状況等の物流情報を共有し、サプライチェーンマネジメントによる物流最適化を実現します。

■緊急配送システム概要



● ISMS認証取得

当社グループは、情報セキュリティマネジメントシステム (ISMS) 認証取得を奨励しています。

トナミ運輸 (株) インターネット事業部では2007年3月に、けいしんシステムリサーチ (株) は2009年8月に「ISO/IEC27001:2005 (JISQ27001:2006)」の認証を取得しました。



適用範囲: インターネットプロバイダ業務



適用範囲: インターネットプロバイダ業務

情報セキュリティマネジメントの国際標準規格
ISO/IEC 27001:2005 (JIS Q 27001:2006) 認証取得済
上記は、Coral Net (コーラルネット) のものです。

● 3PL事業 (サード・パーティ・ロジスティクス)

トナミ運輸 (株) 3PL事業部は、最先端の物流・情報システムを活用して、需要予測から輸送、保管、流通加工、生産管理まで、お客様の業務内容に合わせたシステムを提案しています。3PLにより構築されるのが、在庫の削

減、供給の迅速化、物流業務の合理化などを実現するSCM (サプライチェーン・マネジメント) です。

2008年11月には、川崎流通センターを増設し、一層の物流サービス向上に取り組んでいます。



トナミ運輸 (株) 小杉流通センター

● 海外への事業展開

トナミ運輸 (株) は、2008年10月「大連駐在事務所」を設立しました。2005年9月の「上海事務所」の開設

に続き、中国でのさらなる業務拡大に向け一層の業務支援強化をはかれるよう取り組んでいます。



トナミ運輸 (株) 大連駐在事務所

TOPICS

産直ホームページリニューアル

トナミ運輸 (株) 物品販売事業部では、2009年2月に産直ホームページをリニューアルしました。お客様に旬の特産品を提供するとともに、コミュニケーションを深めていきたいと思ひます。是非、お気軽にご利用ください。



<http://www.t-sanchoku.jp/>



社会とのつながり



安全な社会づくりを目指して

交通事故防止への取り組みは、事業の中だけでなく地域社会にまで展開し、安全な社会づくりに貢献していきたいと考えます。

● 輸送の安全に関する基本的な方針

トナミ運輸(株)は、輸送の安全に関する基本的な方針を設定しています。

- ① 当社の安全衛生は、従業員の生活と安全を守ることを基本とする
- ② 常に安全・確実・迅速なサービスを提供する
- ③ 交通事故のない社会を作り上げるための牽引車となるべき行動を取る
- ④ あらゆる機会を利用し、地域の安全推進企業として社会に信頼されるよう模範行動に徹する

● 安全運転指導

交通安全確保のために、事故ゼロを目指してさまざまな安全運転指導を行っています。また、トナミ運輸(株)のドライバーは、常に安全手帳を携帯しています。安全運転への注意事項はもちろんのことプロドライバーとしての心得や健康管理に関することが記載されています。



営業乗務員リーダー研修



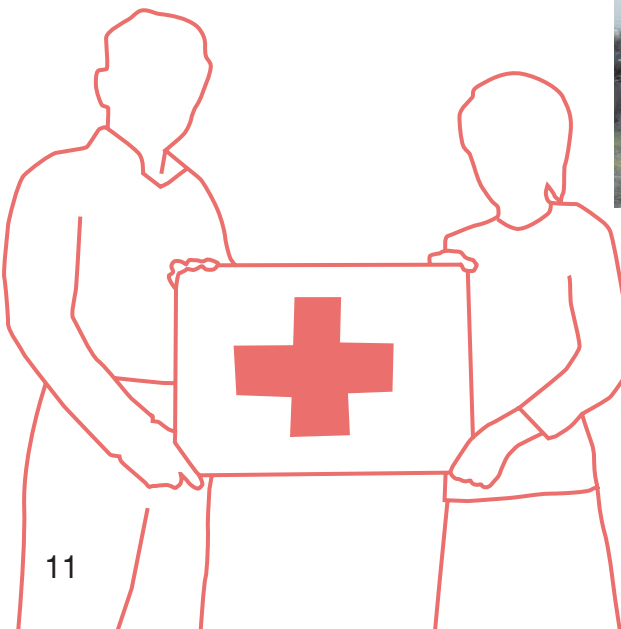
アルコール検知器検査の実施



トラックの死角を体験



安全手帳の携帯



●連続無事故表彰

トナミ運輸（株）では、乗務職連続無事故者には表彰をしています。

無事故の記録は、本人の事故防止に対する強い自覚と不断の実践の賜物であり、その努力と家族の方の協力は絶賛に値するものです。

富山支店運行乗務員の吉田久仁義運転手が、富山県警と富山県トラック協会から44年無事故無違反で表彰を受けました。

44年無事故無違反で表彰



〇〇〇

家族の協力があるからこそ、このような賞を受賞できたと思います。

●家族交通安全ポスター

トナミ運輸労働組合では、事故防止の取り組みとして、従業員の家族を対象に交通安全に関するポスターを募集しています。優秀作品は、各職場に掲示し、家族の願いを心に刻み事故防止に取り組んでいます。



あんぜん号



ヘリコプター&防災・防犯フェスティバル2008



高校生エンジョイスクール

あんぜん号は、自動車運転の適正検査機器を備えた運転適正診断車です。動体視力検査、夜間視力検査、速度見越検査などの8項目の検査機器を搭載しており、コンピュータで安全運転のポイント診断ができます。乗務員に対して定期的に適性検査を実施すると同時に、ご希望のあるイベント・企業・学校へ出向き、適性診断・指導を実施しています。

社会とのつながり



地域社会とのコミュニケーション

さまざまな地域活動に参加し、社会に貢献していきます。

● 社会に学ぶ

トナミ運輸（株）では、積極的に小中高大学生の社会見学やインターンシップの受け入れを行っています。

14歳の挑戦に協力

トナミ運輸（株）砺波支店では、2008年9月29日～10月3日にかけて地元中学校による就業体験『社会に学ぶ 14歳の挑戦』に協力しました。

運送方法の仕組みについての説明を行い、荷物の仕分けなど運送の仕事を実際に体験していただきました。

社会に学ぶ 5日間

- 1日目 ・運送方法の仕組みについて
・荷物の仕分け
- 2～3日目 ・荷役作業の流れ
・現場体験
- 4日目 ・配達のお手伝い
- 5日目 ・コンピュータ管理について



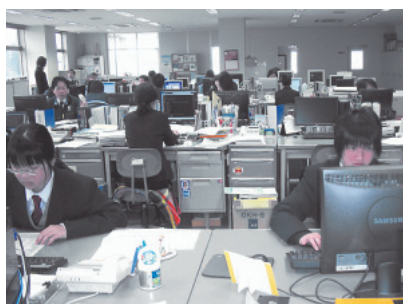
トナミ運輸（株）砺波支店

小学生の社会見学



トナミ運輸（株）新潟支店

高校生の職場体験学習



トナミ運輸（株）コンピュータセンター

大学生の企業見学の開催



トナミ運輸（株）小杉流通センター

● 高等学校「専門技術者等特別講師招聘事業」に協力

トナミホールディングス(株)経営企画室は、富山県立高岡商業高等学校の「専門技術者等特別講師招聘事業」にて講義を行いました。



富山県立高岡商業高等学校

● eネットキャラバン活動

トナミ運輸(株)インターネット事業部では、業界規模のeネットキャラバン※のCSR活動に賛同し、高岡市男女平等推進センター主催の「考えよう!子供のインターネット・ケータイ安全利用」講座での講演活動を行っています。



魚津ブロックPTA連絡協議会研修会

※eネットキャラバンとは、社団法人電気通信事業者協会、社団法人テレコムサービス協会、社団法人日本インターネットプロバイダー協会、社団法人日本ケーブルテレビ連盟、財団法人インターネット協会、財団法人マルチメディア振興センター、総務省および文部科学省が、安全なネット社会づくりを目指すことを目的に結成された団体活動です。



寄贈車両

● 福祉支援活動 (財団法人トナミ松寿会)

財団法人トナミ松寿会は、社会福祉施設などへの助成活動を目的に設立された団体です。

2008年12月15日、富山県内の福祉施設4団体に送迎用車両の贈呈式が行われました。今回を含め、車両の寄贈は、延べ51台(51施設)となりました。



トナミ松寿会贈呈式

● 清掃ボランティア活動

トナミ運輸労働組合結成60周年記念事業(社会貢献活動)の一環として、国道8号線沿いの清掃活動を行いました。全国から組合役員約120人が参加、富山県高岡市から富山市にかけて、歩道(上下線)約50kmの清掃を実施しました。



トナミ運輸(株)中央支店

● 地域祭礼に参加

トナミ運輸(株)上田営業所では、地元の市民祭り『上田わっしょい』に1995年から14年連続で参加しています。2008年度は7月26日に開催され、従業員はもとより、その家族、顧客、協力会社から約70人が参加しました。



上田わっしょい

● バドミントン教室の開催

トナミ運輸(株)は、1990年に実業団バドミントン部を創部して以来、地域の皆様の応援を受け、多くの舞台で活躍しています。また、地域のジュニア層の強化のためにバドミントン教室を開催しています。



バドミントン教室

社会とのつながり



人材の育成と働きやすい職場づくりを目指して

人事制度、教育制度により、個々の人材を伸ばし、
また、職場の安全確保、従業員のこころとからだへの配慮を通し、
従業員一人ひとりが活躍できる職場づくりを奨励しています。

●安全な職場づくりを目指して

トナミ運輸(株)は、従業員が安全に安心して働ける労働環境を整備するため、各事業所において「事故防止安全衛生推進委員会」を設置しています。職場における従業員の安全を確保することは、従業員およびその家族の幸せ、またお客様へのサービス、品質の維持・向上の観点からも重要な取り組みです。企業の財産である従業員への安全衛生対策の強化に取り組み、安全が確保された職場づくりに努めています。



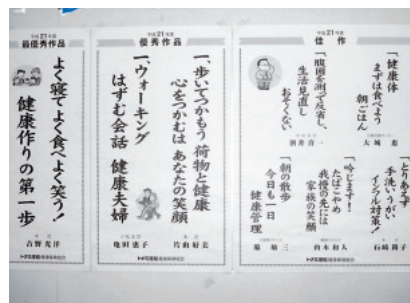
朝礼点呼



ミーティング風景



消防訓練



健康づくり標語コンテスト



● 人事制度

従業員の活力を高め、会社のさらなる成長と発展をはかるため、従業員一人ひとりの個性を尊重し、それぞれに役割を与え、それを軸に適正な評価と処遇を行い、自己の能力を伸ばすよう努めています。

● 高齢者雇用の取り組み

トナミ運輸（株）は、継続雇用制度の適用など、定年後の従業員に対する労働環境整備の取り組みも進めています。また、2007年度より定年を60歳から61歳に延長しました。

● 人材育成・研修制度

従業員の能力開発と人材育成をはかるため、集合研修で学ぶ内容、現場教育で指導すべき内容、自ら学ぶべき内容を組み合わせ、教育効果を高めるよう取り組んでいます。



研修風景

● 「こころ」と「からだ」の健康づくり

従業員が健康で、充実した日常生活を送るために健康診断を実施し、その結果に基づき2次健診の勧奨、産業医や保健師による健康相談教室を開催し、従業員一人ひとりの健康管理に努めています。



トナミ運輸健康保険組合ホームページ
<http://www.tonami.co.jp/kenpo/index.html>

わたしの仕事



人事部
 橋本 泰子 事務員

入社して2年目、仕事の中心は社内報の制作です。

入社当初から携わっていましたが、今年度より編集担当者となりました。

まさか物流の会社に入って「本」を作ることになるとは夢にも思っていませんでした。社内のことも何ひとつわからなかったのが不安もありました。でも、自分の所属する部署から見る社内だけではなく、多方面から社内を知ることができると思うと、わくわくしました。その気持ちを忘れないように、現在も取り組んでいます。

文章を書いたり、写真を撮ったりするこ

とが多く、どちらも決して得意ではないので、少しずつ勉強をしているところです。

これからは、「みんなが読みたくなる社内報」を、次に「みんなが出てくる社内報」を、その次は「みんなが会社に何か提言できるツールとしての社内報」を作りたいと思っています。

締切り間近になると、記事を待つ夢を見ってしまうこともありますが、「あの企画がおもしろかった」とか「今度の社内報で、ぜひこれを紹介してほしい!」という、社員の方々からの言葉がとても励みになっています。

環境とのつながり



環境負荷低減に向けて

限られた地球環境の中で持続的に経済社会を発展させていくために、役員社員一人ひとりが、環境法規を遵守し、循環型社会形成のために資源の浪費につながる使い捨て社会を見直し、あらゆる場面において環境とのかかわりを認識し、環境負荷低減を心掛けています。(社員行動規範より)

私たちは、安全で確実迅速な輸送サービスをお客様に提供し、
ご満足いただくことが第一の使命であると考えます。
同時に私たちを取り巻く環境問題についても、
私たちにふさわしい責任を果たすことを目指します。

環境 方針

地球環境を守る事は、あらゆる生命の生存に関わる最重要テーマであると認識し、「輸送を通じ社会に寄与し、地球環境の保全に努める」を基本理念として、以下の方針に基づいて取り組みます。

- 1 輸送サービスを提供することによって生じる環境汚染に対して、次の事を守ります。
 - ①環境に優しい車の導入を図ります。
 - ②エコドライブの実践に取り組みます。
 - ③物流の効率化を通じて、地球環境に優しい物流システムを構築します。
 - ④リサイクルシステムを構築し、循環型社会づくりに貢献します。
 - ⑤環境に優しい商品の開発、提供に推進します。
 - ⑥省資源、省エネルギーに継続的に取り組み、日々、改善を図ります。
- 2 環境に関する国・地方自治体等の法規制及び当社が同意するその他の要求事項を遵守し、環境保全に努めます。
- 3 環境目的及び環境目標を具体的に定め、定期的にレビューを実施し、環境マネジメントシステムの継続的な改善を致します。
- 4 社内環境教育、啓発活動を通して全従業員に本方針を周知すると共に、一般にも公開し、さらに、地域社会への環境保全活動に積極的に参加します。

● 環境保全活動の目標と実績

トナミ運輸(株)では、環境活動を推進するための環境マネジメントに取り組んでいます。
さまざまな活動に目標を持ち、結果を見直し、継続的改善に向けて、体制強化に努めています。

■ 2008年度取り組み実績

◎:向上 ○:維持 ×:低下

実践項目	取り組み実績	自己評価	ページ
環境にやさしい車の導入	低公害車30台を導入	◎	P20
物流の効率化と地球環境にやさしい物流システムの構築	2008年10月1日 通運東京支店開設(鉄道によるコンテナ輸送)	◎	
エコドライブの実践	車両積載率 2.9%低下(前年比)	×	P18
	デジタル式運行記録計 396台導入	◎	P21
リサイクルシステムの構築	使用燃料削減、燃費0.4%向上(前年比)	○	P22
	機密文書リサイクル(エコロックシステム)取扱量2,600t	○	P23
環境にやさしい商品の開発・提供および調達	全事業所で使用済ストレッチフィルムのリサイクル実施	○	P25
	コピー用紙、トイレトペーパー、段ボールのリサイクル品購入	○	
	エコマーク入り制服(男子長袖ブルゾン、半袖ブルゾン、作業用ズボン)の使用	○	
	再生トイレトペーパー 356,582ロール販売(前年実績376,291ロール)	×	

■ 2008年度省資源・省電力の取り組み実績

実践項目	2008年度目標		2008年度実績	評価
	目標	目標値		
電力使用量の削減	2007年度比1%削減	26,551,425kWh	24,757,060kWh	◎
コピー用紙使用量の削減(トナミ運輸(株)本社)	2007年度比1%削減	年間 1,506,285枚	1,602,340枚	×

● 改正省エネルギー法への対応 進捗状況

トナミ運輸(株)では、エネルギー使用の合理化に関する法律の一部を改正する法律(改正省エネ法)の対応として、車両にかかわる5つのCO₂削減対策および計画を策定し、2011年までのCO₂総排出量5.1%削減(2006年度比)に向け、取り組みを進めています。2008年度は、走行にかかわる使用燃料を3,382kl削減することができました。また、走行にかかわるCO₂排出量は100,000t-CO₂となり、2006年度の111,000t-CO₂と比較して10%削減することができました。

2007～2011年度の取り組み	期待効果	2008年度実績
エコドライブの実践 全車両/燃費3%の向上	原単位2.9%向上 (3,200t-CO ₂ 削減)	車両全体の燃費については、0.4%向上(前年比)。また、デジタル式運行記録計を導入し、導入車両については、8%燃費向上
輸配送コースの見直し 空車キロの削減(運行車1運行5km、集配車10km/月)	原単位1.0%向上 (1,100t-CO ₂ 削減)	2007年2月に大阪府内3支店を統合し、倉庫併設の支店を新設。車両の走行キロ削減等の効率化を推進
輸送効率の改善 積載率1%の向上	原単位0.7%向上 (770t-CO ₂ 削減)	積載率86.3%(前年より2.9%低下)
モーダルシフトの実施 2008年度中に長距離運行系統(東京～広島)の鉄道コンテナ化 2便/日	原単位0.5%向上 (550t-CO ₂ 削減)	2008年10月1日 通運東京支店開設 31フィート 2便/日
低公害車の導入 天然ガス自動車 30台/年 ディーゼル車からの代替導入(計150台)	CO ₂ 65%削減 NOx・PMの大幅削減	天然ガス自動車30台導入

環境とのつながり



地球温暖化防止・大気汚染防止のために

CO₂などを中心とする温室効果ガスの増加は、地球温暖化に大きく影響します。低公害車の導入や、輸送の効率化をはかるなど、温室効果ガス削減のための取り組みを積極的に進めています。

●CO₂排出量5.1%削減に向けて(2006年度比)

トナミホールディングスグループは、第18次中期経営・3ヶ年計画において、2011年度CO₂総排出量を、2006年度比5.1%削減する目標を設定しました。

トナミ運輸(株)は、2008年度、エコ

ドライブの実践や低公害車の導入をはかるなど環境負荷低減への取り組みを進め、軽油から排出されるCO₂を2006年度比8.2%削減しました。

電力からの排出量は、排出係数の

低下や省電力の取り組みにより、2006年度比15.4%削減しました。

結果、2008年度のCO₂総排出量は、2006年度比約11,281t削減し、8.7%減の118,045t-CO₂となりました。

■2003—2008年度CO₂総排出量の内訳

(単位:t-CO₂)

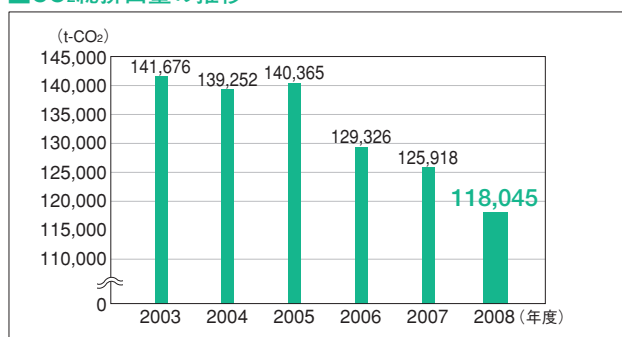
排出エネルギー	2003年度		2004年度		2005年度		2006年度		2007年度		2008年度		2006年度比
	排出量	排出率	排出量	排出率	排出量	排出率	排出量	排出率	排出量	排出率	排出量	排出率	
軽油	127,972	90.33%	124,181	89.18%	119,387	85.05%	112,764	87.19%	109,552	87.00%	103,506	87.68%	91.8%
ガソリン	1,129	0.80%	1,295	0.93%	1,480	1.05%	1,572	1.22%	1,474	1.17%	1,364	1.16%	86.8%
A重油	509	0.36%	896	0.64%	1,184	0.84%	273	0.21%	318	0.25%	278	0.24%	101.8%
LPG(リフト)	1,404	0.99%	1,262	0.91%	1,087	0.77%	1,094	0.85%	980	0.78%	887	0.75%	81.1%
CNG	436	0.31%	558	0.40%	836	0.60%	1,227	0.95%	1,364	1.08%	1,516	1.28%	123.6%
LPG(湯沸)	541	0.38%	632	0.45%	574	0.41%	571	0.44%	556	0.44%	491	0.42%	86.0%
灯油	352	0.25%	335	0.24%	310	0.22%	295	0.23%	308	0.24%	248	0.21%	84.1%
都市ガス	89	0.06%	86	0.06%	98	0.07%	90	0.07%	95	0.08%	79	0.07%	87.8%
電力	9,244	6.52%	10,007	7.19%	15,409	10.98%	11,440	8.84%	11,271	8.96%	9,676	8.19%	84.6%
CO ₂ 総排出量	141,676	100.00%	139,252	100.00%	140,365	100.00%	129,326	100.00%	125,918	100.00%	118,045	100.00%	91.3%

注1:排出係数は、平成15年7月 環境省地球環境局の事業者からの温室効果ガス排出量算定方式ガイドラインによる。

(LPGを単位kgからmlに換算する場合、LPGガス産気率4.82ml/10kgを用いた。)

注2:電力の排出係数は0.373で算定(電気事業連合会2008年度実績)

■CO₂総排出量の推移



●環境にやさしい低公害車の導入（NOx・PMの削減）

トナミ運輸（株）では、輸送にかかわるNOx、PMなどの大気汚染物質削減をはかるため、環境に配慮した低公害車を導入しています。2008年度は全社で低公害車を30台導入しました。また、NOxの排出量の削減対策として、低公害車導入のほかに、最新規制適合ディーゼル車を導入しています。

最新規制適合ディーゼル車は2008年度までに1,554台導入しました。結果、NOxは前年度比128t、PMは前年度比15t削減しました。



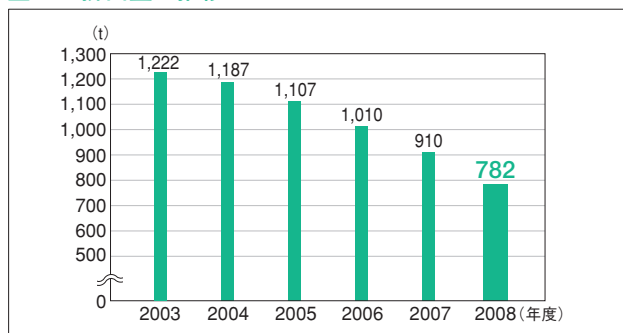
天然ガス自動車

■低公害車保有実績の推移

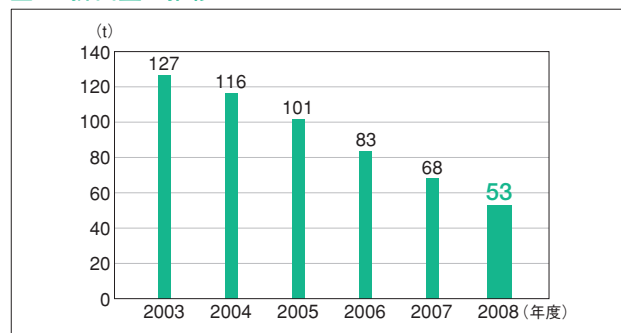
	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度
全車両台数	4,221台	4,356台	4,286台	4,236台	4,342台	4,173台
天然ガス自動車台数	75台	85台	117台	151台	181台	211台
メタノール車台数	0台	0台	0台	0台	0台	0台
LPG車台数	11台	11台	11台	11台	11台	11台
ハイブリッド車台数		2台	2台	12台	12台	12台
導入率	2.04%	2.25%	3.03%	4.11%	4.70%	5.61%

※全車両台数は営業用の登録車合計

■NOx排出量の推移



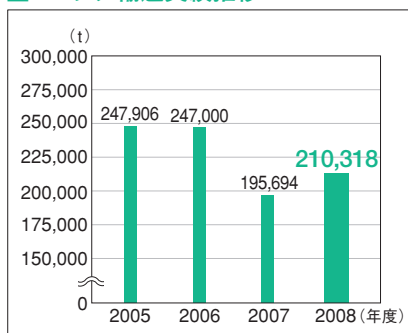
■PM排出量の推移



●モーダルシフトの推進

トナミ運輸（株）では、モーダルシフトへの取り組みの一環として、コンテナによる鉄道輸送を行っています。トラック輸送の削減による環境負荷低減と同時に、交通事故防止や長距離運行等の効率化につながっています。

■コンテナ輸送実績推移



トナミコンテナ

環境とのつながり



環境と安全への取り組み

環境保全と交通事故防止の両立を目指し、さまざまな取り組みを進めています。

● エコドライブの実践

省燃費運転（エコドライブ）は、大気汚染物質や温室効果ガスの排出を抑えるとともに、やさしい穏やかな運転の実践により、安全性の追求、燃費

の向上をもたらします。トナミホールディングスグループは、「安全」「環境」「経営」にさまざまな効果が期待される『エコドライブ』を実践しています。

エコドライブ教育

トナミ運輸（株）では、ドライバー研修や新入社員教育時に、省燃費運転、自動車の適切な点検・整備の仕方、省燃費運転の注意事項について周知徹底をはかっています。また、社会

活動の要請を受け、『エコドライブと交通安全』について講師を派遣し、地域社会のエコドライブへの取り組みに協力しています。

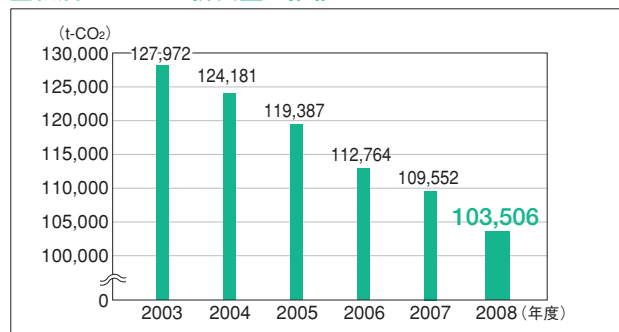


ドライバーが持つ安全手帳には、燃料節約のポイント等、経済運転について掲載されています。

長距離輸送分野のエコドライブ実践

トナミ運輸（株）のCO₂排出量の約88%が軽油から排出され、そのうちの約70%が長距離輸送車両から排出されます。走行においてスピード規制や等速走行等、エコドライブの実践により燃費の向上をはかり、CO₂の削減に努めています。

■ 軽油からのCO₂排出量の推移



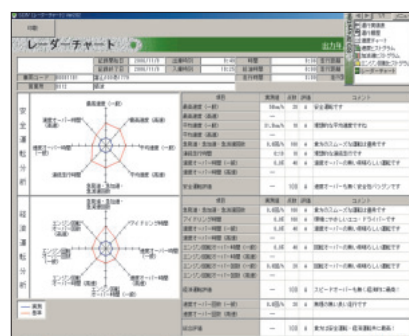
●デジタル式運行記録計の活用

デジタル式運行記録計は、時間・距離・速度の3要素を含むすべてのデータを数値で記録をとり、画像での解析・表示ができます。

このシステムの導入により、危険運転や事故発生の記録はもちろん、安全

運転の証明もできるようになり、交通事故防止だけではなく、模範運転について指導ができるようになりました。

トナミ運輸(株)では、2008年度に396台導入し、1,175台の車両が装着しています。



運転日報

デジタル式運行記録計導入事業所よりコメント

トナミ運輸(株)福井支店 野田 貢 支店長

デジタル式運行記録計を導入して2年目になりましたが、導入当時と比較をすると乗務員各自の省燃費・安全走行・作業内容にも相当な変化が出てきています。当初はさまざまな意見が各乗務員より噴出し、「果たしてできるのか」と不安も多く感じていましたが各乗務員のライバル意識も手伝い無難に浸透させることができました。

その結果初年度において約4%の燃費向上(環境面の改善)しました。また、管理面においても日々の業務管理日報の検証において注意指導、作業効率の改善もリアルタイムに行うことが可能となり、店所調整会議にて意見を交換しながらさらなる改善に取り組んでいます。

●ドライバーの取り組み

駐停車時はアイドリングストップ

アイドリングストップは、自動車の燃料消費量を抑え、CO₂を削減します。トナミ運輸(株)では、アイドリングストップワイヤー(キー抜きロープ)をすべて

の集配ドライバーに携帯させ、車を離れる際も、必ずエンジンをストップするようにしています。



アイドリングストップワイヤー

車両の日常点検強化

安全な運行、環境にやさしい運行を実践していく上で、日常点検は欠かせません。

トナミ運輸(株)では、すべての車両で日常点検項目はもちろんのこと、

ホイール、ナット、ボルトの緩みや損傷、クラッチ作動の点検等を実施しています。



タイヤ点検

環境とのつながり



環境物流

環境負荷低減への取り組みは、業種を問わず、企業に求められている課題です。お客様には、総合物流企業として、提案、サポートいたします。

● 廃家電製品の収集運搬業務・集積場の運営

トナミホールディングスグループでは、リサイクルが義務づけられている廃家電製品のリサイクルを支援するために、電器店などから排出される廃家電製品の一次収集を行っています。

呉西トナミ運輸(株)では富山県内、中京トナミ運輸(株)では、静岡県内

の廃家電製品(エアコン・テレビ・冷蔵庫・洗濯機)の法定集積場として、一地域を担当しています。2009年11月、呉西トナミ運輸(株)は取引先である家電メーカー様より4年連続で「優良指定引取場所」の認定を受けました。



廃家電の積み合わせ

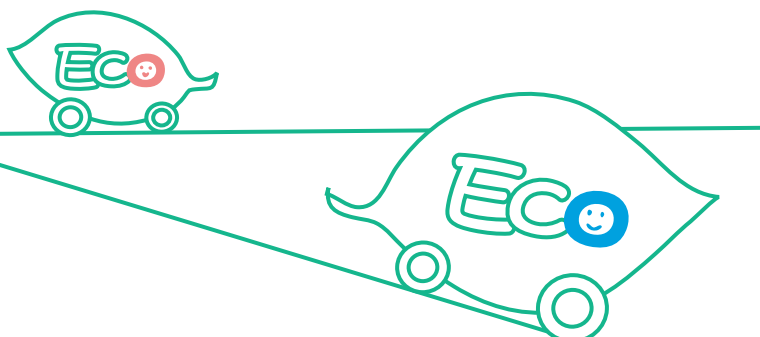
● 機密文書リサイクル「エコロックシステム」

トナミホールディングスグループでは、リサイクルとセキュリティを両立させた機密文書リサイクルシステム「エコロックシステム」を事業展開しています。関東地区、中京地区に事業拠点を設置、また、北陸地区の地域企業と共同出資の「株式会社ジェスコ」を中

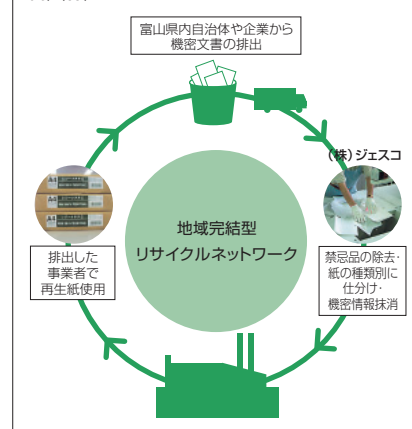
心に機密文書リサイクル事業に取り組んでいます。行政や病院、金融、生損保など、あらゆる業種でご利用いただいています。



エコポスト



例) (株)ジェスコ



新グリーンエネルギー事業への挑戦

地球温暖化対策として、環境にやさしい代替エネルギーの開発に挑戦しています。

●新グリーンエネルギー事業（環境省 平成21年度地球温暖化対策開発委託事業）

「北陸グリーンエネルギー研究会」は、産学官市民の協力のもと設立され、トナミ運輸（株）は、環境事業の取り組みの一環として、参加しています。

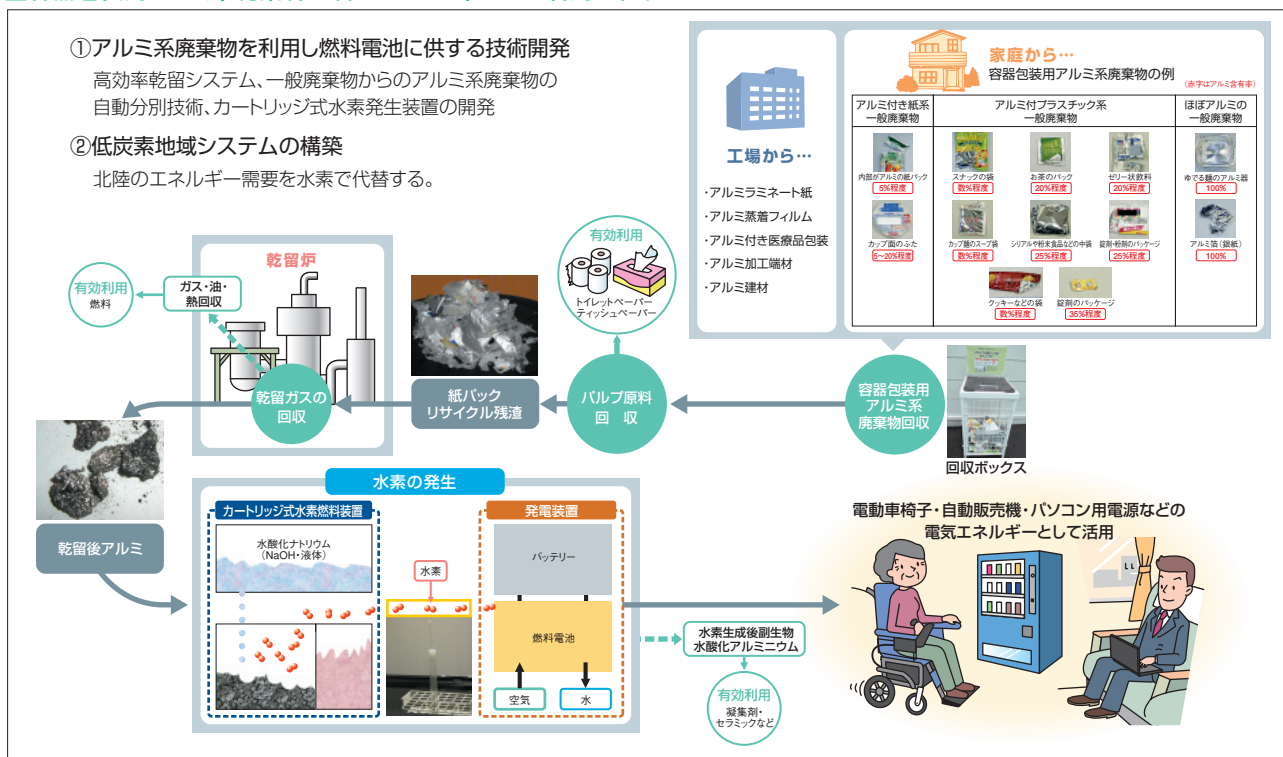
環境省の「平成21年度地球温暖

化対策技術開発事業」に応募し、2009年3月31日付で委託事業に採択されました。

本件の事業の目的は、アルミ系廃棄物からのアルミ高効率回収技術と

北陸地域に適した水素エネルギー利用システムの開発であり、2009年4月から2012年3月末まで採択期間として取り組んでいます。

■容器包装用アルミ系廃棄物の新グリーンエネルギー利用の仕組み



いしかわ環境フェア2008に出展

2008年8月23、24日に開催された「いしかわ環境フェア2008」においてエネルギー分野としてブースを出展しました。



いしかわ環境フェア2008

環境とのつながり



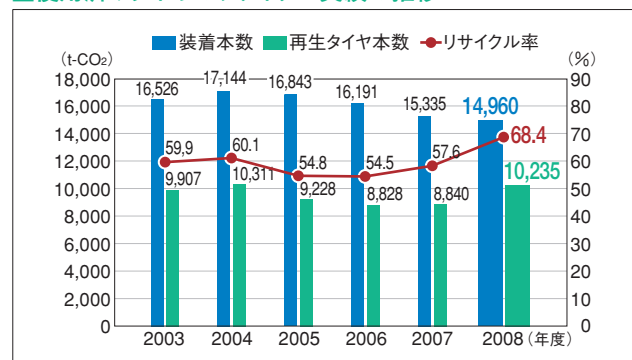
廃棄物削減への取り組み

廃棄物削減に向けて従来の取り組みを見直し、継続的改善に努め、ゴミ減量化とリサイクルの推進を行っています。

●使用済みタイヤのリサイクル

トナミ運輸(株)では、資源の有効利用をはかるため、使用済みタイヤはすべて再生タイヤメーカーに引き取ってもらっています。また、積極的に再生タイヤを使用しています。

■使用済みタイヤのリサイクル実績の推移



●リサイクルへの取り組み

「古紙リサイクル」活動

トナミ運輸(株)本社では、地域企業、自治体で構成する、地域完結型の古紙リサイクル活動に参加しています。トイレtpーパー、段ボール、コピー用紙は、サークル活動に加入する企業が排出した古紙を原料とした再生製品を使用しています。

■古紙リサイクル実績推移

	古紙	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度
古紙回収実績 (kg)	上質紙	0	120	230	0	2,030	0
	新聞	1,840	2,150	3,200	2,860	3,370	3,760
	段ボール	9,760	13,250	16,760	13,600	4,510	4,270
	雑誌	14,100	10,560	11,900	7,160	7,230	7,330
	その他	470	50	770	0	0	0
	機密文書	2,580	1,620	3,120	2,055	2,550	2,580
	合 計	28,750	27,750	35,980	25,675	19,690	17,940
品購入	リサイクル						
	トイレtpーパー(個)	171,600	180,792	176,256	161,328	137,928	383,664
	段ボール(個)	88,894	71,214	58,181	64,661	69,120	66,960
	コピー用紙(kg)	6,987	5,890	6,829	6,954	6,956	7,302

グリーン購入の推進

トナミ運輸(株)では、制服、事務用品等は、できるだけ環境への負荷が少ない商品を使用しています。



男子ユニフォーム



リサイクル段ボール

トナミホールディングスグループ 環境への取り組み

トナミホールディングスグループは、「Do Eco!」をスローガンに従業員一人ひとりが日常、気軽にできる5つの取り組みを設定しました。



CSR活動の歩み

1990年10月	・リサイクル委員会（古紙の分別回収リサイクル化を目的に設立） ※使用済みPPC上質紙、色紙、チラシ、新聞紙、雑誌、段ボール、封筒を分別回収…各部門より委員を任命、普及活動開始	
1991年7月	・とやま環境財団事業協賛	
1993年4月 5月 6月	・オリジナルトイレットペーパー作成、全事業所で使用開始 ・とやま古紙再生サークル入会（使用済みオフィス古紙の分別リサイクルの取り組み活動） ・引越用再生段ボールケース使用開始	 低公害車（メタノール車）4台導入
1994年3月 9月	・財団法人「トナミ松寿会」設立 ・社内のゴミの減量化、リサイクル利用を目的に「ゴミ減量化推進マニュアル」を制定、社内配布	 低公害車（メタノール車）3台導入
1995年6月	・「危機管理規程」制定	
1997年4月 12月	・アイドリングストップ運動開始、2001年までに累計3,900本のアイドリングストップワイヤー購入 ・会社で使用するPPC用紙、その他の紙をすべて再生紙に切り替える	 低公害車（CNG車）1台導入
1998年4月	・省資源設備導入…洗車排水循環再利用システムの導入（川崎支店）	 低公害車（CNG車）9台導入
1999年1月 4月 10月	・エコロックシステム（機密文書リサイクル）事業開始 ・「整理・整頓・清掃マニュアル」制定 ・リサイクルトイレットペーパーの宅配販売開始 ・「べんりねっと」開始	 低公害車（CNG車）2台導入
2000年6月 10月	・（機密・保存文書）リサイクル事業の新会社（株）ジェスコに参画 ・環境ビジネス（産業廃棄物収集運搬）事業開始	 低公害車（CNG車）1台導入
2001年4月 6月	・「ゴミ減量化推進マニュアル」を改訂、全社的にゴミの分別取り組み運動を展開。事業所内に委員会を組織化 ・ダイオキシン対策として全事業所の焼却炉使用禁止	 低公害車（CNG車）7台導入
2002年7月 9月	・プラスチックリサイクル事業への参入決定 ・「べんりねっと」による文房具グリーン調達化全事業所展開 ・「不当要求対応マニュアル」制定	 低公害車（CNG車）29台導入
2003年6月 10月 12月	・環境管理委員会（エネルギー、リサイクル、物流効率化の各委員会）発足 ・コンプライアンス室新設、コンプライアンス体制の強化 ・ISO14001認証取得 ・「コンプライアンス規程」制定 ・「社員行動規範」制定	 低公害車（CNG車）22台・（LPG車）11台導入
2004年2月 3月 6月 7月 10月	・洗車排水循環再利用システム導入（加古川支店） ・21世紀の新しい「まち美化システム」アダプト・プログラム取り組み ・グリーン経営認証取得（東京航空支店、富山支店、堺支店（現 南大阪支店）、藤枝営業所） ・「（株）静岡ドキュメントセキュリティ」を設立（機密文書リサイクル事業） ・会計伝票のペーパレス化～新財務会計システム（system21）の導入	 低公害車（CNG車）14台導入 低公害車（ハイブリッド車）2台導入
2005年3月 6月 7月	・「社内通報規程」制定 ・環境事業部、環境対策室を開設 ・「個人情報保護コンプライアンスプログラム」策定 ・内部統制委員会設置	 低公害車（CNG車）32台導入
2006年4月 6月 11月	・「トナミ運輸グループ社内通報規程」改版 ・「トナミ運輸グループ経営リスクマネジメント管理規程」の制定 ・「トナミ運輸グループ緊急時対応規程」「トナミ運輸グループ大規模災害対応規程」の制定 ・飲酒運転に関する就業規則改正	 低公害車（CNG車）34台導入 低公害車（ハイブリッド車）10台導入
2007年2月 3月 9月 11月	・洗車排水循環再利用システム導入（南大阪支店） ・「包装材廃棄物からの資源回収システム」に関する特許出願（特願2007-048111号） ・「ゴミ減量化推進マニュアル」改版 ・「産業廃棄物取扱マニュアル」改訂 ・「コーラルネット」ISMS認証取得 ・インターネット・プロバイダ事業で「有害サイトブロックサービス」開始 ・「水素エネルギーの実用化」に関する特許出願（特願2007-282748号）	 低公害車（CNG車）30台導入
2008年4月 10月	・内部統制室を開設 ・トナミホールディングス株式会社が始動（純粋持株会社体制へ移行） ・省エネ設備の導入（浦和支店）	 低公害車（CNG車）30台導入
2009年3月	・「環境省地球温暖化対策技術開発事業」採択	

※CSR活動の歩みは、2008年度までのトナミ運輸（株）の活動です。

トナミホールディングス株式会社

〒933-8788 富山県高岡市昭和町3-2-12
 TEL (0766) 32-1073 FAX (0766) 32-1077
 URL <http://www.tonamiholdings.co.jp/>
 （本報告書はホームページでもご覧いただくことができます。）



本冊子は再生紙を使用しています。